

IV 2017（平成 29）年度「オープンクラス」実施報告

1.実施概要

オープンクラスによる相互授業参観は、教員同士が互いの授業を公開し授業内容や方法について検討することによって、授業方法に関する知識や技能を共有できるなど、多くのメリットがある。本学では 2011（平成 23）年度よりオープンクラスを実施している。

2017（平成 29）年度は 3 週間のオープンクラス・ウィークを実施した。期間中は、原則として全ての学部開講授業を、本学の教職員と学生を対象に公開した。授業参観者から提出されたコメントシートには、参観した授業についての感想や助言が寄せられ、その内容は授業担当教員へ伝えられた。

2017（平成 29）年度「オープンクラス」実施状況

オープンクラス・ウィーク実施期間	参観者コメントシート提出数
10 月 23 日(月)～11 月 10 日(金)	29

2.現状と今後の課題

本年度のオープンクラスは後期に実施し、参加者コメントシートの提出は 29 であった。昨年度の後期に実施したオープンクラスでは 32 であったことと比べると、昨年度とほぼ同数の参加者であった。本学の現員教員数は 71 であるから、およそ 4 割の教員が今年度のオープンクラス・ウィークの期間中に同僚の授業を参観したことになる。

オープンクラスは多くの大学で実施されているが、本学のオープンクラスは、2013（平成 25）年度以降、2～3 週間と長めの期間を設定していること、受講生が極端に少ない場合などの特例を除いてほとんどすべての授業を公開し、教員各自が都合のよいときに参観できるようにしているところにある。今年度はその 5 年目であるが、本学の FD 活動の伝統として、今後も継続していくべきものであると考える。

ただし、オープンクラスを前期に実施した場合と後期に実施した場合とを比べると、後期に実施した場合は参加者が少なくなる傾向がみられる。これは、後期においては、教育実習の参観や卒業論文の指導などに時間を要することが主な理由であると思われる。次年度以降は、より多くの教員が参加できるように、実施の時期を再考する必要がある。

昨今の大学の FD 活動におけるオープンクラスは、教員が同僚の授業方法から学ぶ機会であるだけでなく、授業の中での学生の学びについて省察し合う機会であるというように、その意味が拡張されてきている。従来のように授業方法の良し悪しを検討するのではなく、授業の中のどこで学生の学びが成立していたか、どこで学生がつまづいていたかを、学生の表情や様子からつぶさに見取って、それとのつながりで授業方法を検討することが重要視されつつある。このことをとおして、教員同士が学問領域の壁を越えて「学生を共に育て合う関係」を築き学び合うことが、今まさに求められているのである。

文責： 田中 裕喜（現代人間学部 こども教育学科 FD 委員）